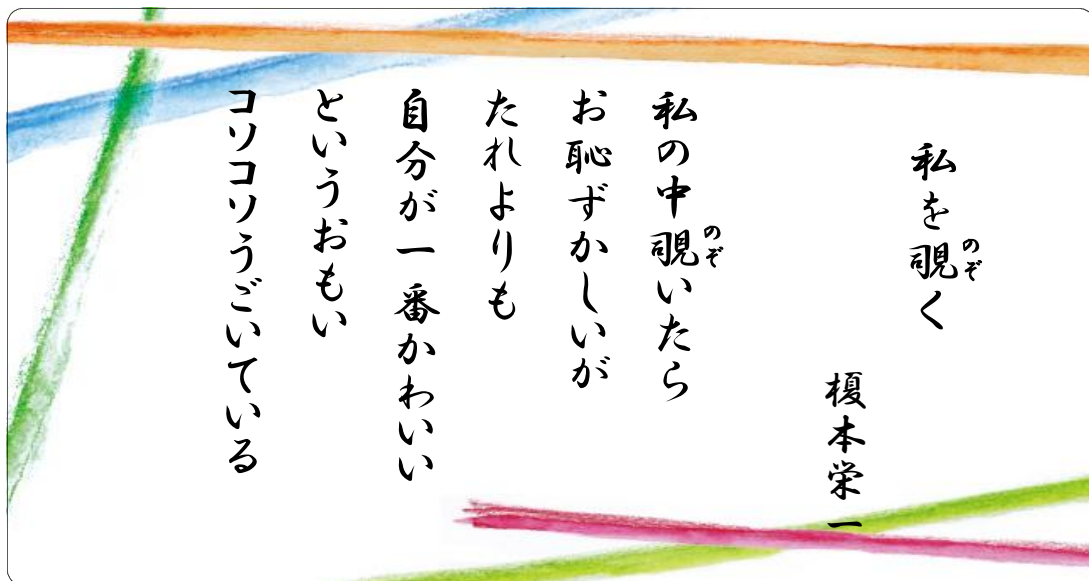




私を覗く

榎本栄一

私の中覗いたら

お恥ずかしいが

たれよりも

自分が一番かわいい

というおもい

コソコソうごいている

よびごえ



浄土真宗

仏光寺派
光明山
光善寺

〒915-0802

越前市北府2丁目2-18

Tel. 0778-22-1222

なんとも、すさまじく痛ましい事件が続く。しかしそれもすぐに、日常の忙しさにまぎれ、ひとごととして忘れ去ってしまう。

水上勉氏が随筆にこんなふうなことを書かれていた。「今の若い人たちの間には、自分の在り方を悲しむという感覚が非常に欠落している。そしてそのために自分の思いが通らなくなると、突如という形で自殺をしてしまったり、人を殺してしまったりしてしまう。・・・現代社会の在り方にはまったく絶望のほかない。しかしそこから少しずつでも、絶望を破っていくものがあるとすれば、それは互いに自らを深く悲しむという心だろう」と。

自分だけの閉じられた世界、その価値観をもつてして、正義の旗をふりまわし、聞く耳持たぬ傍若無人のふるまいは、決して若者だけのことではあるまい。

『涅槃経』に

「慚愧あるがゆえに、父母・

兄弟・姉妹あることを説

く」とある。

それは、一軒の家に住む家族という形はあっても、その自らの在り方を深く悲しむという心がなければ、人間関係は失われるということであろう。

たとえ親子・兄弟といっても、自分の都合、自分の気分のごとくで評価していく関わりでしかなかったなあという深い悲しみ、慚愧こそが、かろうじて人と人との出遇えるときを与えてくれるのだろう。

